

新型コロナウイルス感染症に関するこころのケアについて 突然の衝撃的な出来事の後に誰にでも起こりうる変化

気持ちが落ち着かなくなる

- せかされているような感じがする
- イライラしやすくなる
- どうして自分がこんな目にあわなくてはならないのかとの怒りがこみあげてくる
- そわそわして、じっとしてられない

孤独感や無力感を感じる

- 悲しさやさびしさが強くなる
- 自分がとても無力に感じる
- 何に対しても無関心・無感動で、こころが動かない感じがする

恐怖感・不安感におそわれる

- 体験したことが怖くてたまらない
- 将来に希望が持てなくて不安になる
- 物音に敏感になる

日常生活のリズムが乱れる、 体調が調わない

- 疲れがとれない
- 眠れない、悪夢をみる、朝早く目が覚める
- 吐き気・食欲不振・胃痛・下痢・便秘などが起きやすくなる
- じっとしていても胸がドキドキしたり、急に汗が出たりする

このような心身の変化は、大きな出来事に直面したときに誰にでも起こりうる正常な反応です。その人の性格等が弱いから起こるものではありません。多くは時間とともに軽減していきます。ただ例外的に、特に強くこころに負担がかかったようなことなどはPTSD（心的外傷後ストレス障害）という状態になることもあります。気になる場合は、専門機関にご相談下さい。

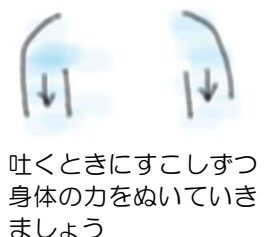
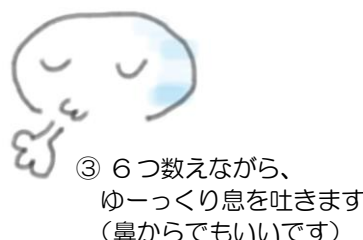
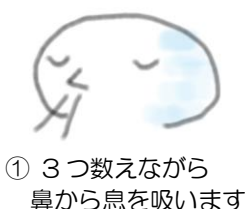
少しでも乗り越えやすくするために

- 休息をとりましょう
大変な時だからこそ、できるだけ気持ちとからだをいたわりましょう。
- 食事や水分を十分に取らしましょう
なるべく適度な食事と十分な睡眠をとるように心がけましょう。
- お酒やカフェイン（コーヒー、緑茶、紅茶等）の取りすぎに注意しましょう
不眠の原因になります。また、**眠れないからといって飲酒すると、かえって睡眠を浅くしてしまうおそれがあるので注意しましょう。**
- 心配や不安を一人で抱えずに、周りの人と話しましょう
信頼できる人に話すことが回復の助けになります。
- お互いに声をかけあいましょう
外で過ごす活動をしながら、人とつながっていきましょう。

回復の仕方や早さは一人ひとりちがいます。自分のペースにあわせ、**がんばりすぎないように**しましょう。小さなことからでもいいので、**できる範囲で少しずつ自分の生活を取り戻しましょう。**

～気持ちが動揺したり、不安な時に落ち着く方法～

5回から10回ほどくり返しましょう



子どもや高齢者の心の変化にも注意しましょう

お子さんの場合

- よく泣く
- 夜泣き、おねしょをする
- 眠れない、食欲がない
- 怒りっぽく、機嫌が悪い
- 急に興奮する
- 反抗的になる
- 気が散りやすくなる
- 親の気を引くふるまいをする
- 赤ちゃんがえりをする
- コロナに関連した遊びを繰り返す

心に強いショックを受けながら、それを表現できずに過ごしていることがあります。

「しっかりしなくっちゃ」などと励まさず、否定せずに話を聴きましょう。ただし、無理に話を聞きだす必要はありません。抱きしめてあげるなど、スキンシップの機会を増やしましょう。また、体験を遊びとして繰り返すことは、本人が落ち着いていくプロセスなので、無理に止めないようにしましょう。まず寄り添い、安心感を与えてあげましょう。

高齢者の場合

- 平気そうでも、反応が乏しくなっている
(ぼんやりして見える)
 - 神経が過敏になり、怒りっぽくなる
 - 眠れていない
- (など)

このような身体やこころの変化は、正常な反応です。周囲が落ち着いて受け止めることで、ほとんどの場合は時間とともに回復していきます。



家族や友人を支えている方へ

少しでも役に立ちたいとの思いから、普段以上に気負ったり、無理を重ねることがあります。人を支えている人にも、ストレス反応が起こることがあります。

ストレスチェック

- 物事に集中できない
- 何をしても面白くない
- すぐ腹が立ち、人を責めたくなる
- 状況判断や意思決定にミスがある
- 頭痛がする
- 落ち込みやすい
- 物忘れがひどい
- よく眠れない
- 不安が強い
- 肩こり、冷え、のぼせなどの身体症状がみられる

休む時間が取れなくても、できるだけほっとする時間を持つようにしましょう。それでも症状が長引くようなら、お医者さんや保健師さんに相談しましょう。

熊本市こころの健康センター

相談電話 096(362)8100

月曜日～金曜日 9:00～16:00

(休祭日及び年末年始を除く)